

微積分学I 第6回 平均値の定理

1. 三角関数・逆三角関数

[定理1] (三角関数の微分公式)

$$\textcircled{1} \frac{d}{dx} \sin x = \cos x, \quad \textcircled{2} \frac{d}{dx} \cos x = -\sin x, \quad \textcircled{3} \frac{d}{dx} \tan x = \frac{1}{\cos^2 x}. \quad //$$

[定理2] (逆三角関数の微分公式)

$$\textcircled{1} \frac{d}{dx} \sin^{-1} x = \frac{1}{\sqrt{1-x^2}}, \quad \textcircled{2} \frac{d}{dx} \cos^{-1} x = \frac{-1}{\sqrt{1-x^2}}, \quad \textcircled{3} \frac{d}{dx} \tan^{-1} x = \frac{1}{1+x^2}. \quad //$$

(証明) ① $y = \sin^{-1} x$ と置くと, $\sin y = x$. また, y は主値の範囲 $-\frac{\pi}{2} < y < \frac{\pi}{2}$ にあるので,

$$\cos y = +\sqrt{1-\sin^2 y} = \sqrt{1-x^2}. \quad \therefore \frac{dy}{dx} = \frac{1}{\left(\frac{dx}{dy}\right)} = \frac{1}{\cos y} = \frac{1}{\sqrt{1-x^2}}.$$

② $y = \cos^{-1} x$ と置くと, $\cos y = x$. また, y は主値の範囲 $0 \leq y \leq \pi$ にあるので,

$$\sin y = +\sqrt{1-\cos^2 y} = \sqrt{1-x^2}. \quad \therefore \frac{dy}{dx} = \frac{1}{\left(\frac{dx}{dy}\right)} = \frac{1}{-\sin y} = \frac{-1}{\sqrt{1-x^2}}.$$

$$\textcircled{3} y = \tan^{-1} x \text{ と置くと, } \tan y = x, \frac{dx}{dy} = \frac{1}{\cos^2 y} = 1 + \tan^2 y = 1 + x^2. \quad \therefore \frac{dy}{dx} = \frac{1}{\left(\frac{dx}{dy}\right)} = \frac{1}{1+x^2}. \quad //$$

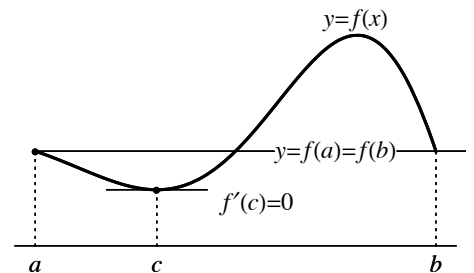
2. 平均値の定理 割線と接線の関係

△ 曲線上の2点 A, B を結ぶ線分 \overline{AB} を割線という.

[定理3] (ロルの定理=特殊版平均値の定理) $f(x)$ が3条件

- ① 区間 $[a, b]$ で連続,
- ② (a, b) で微分可能,
- ③ $f(a) = f(b)$

をみたせば, $a < c < b$ なる c が存在して, $f'(c) = 0$ となる. //



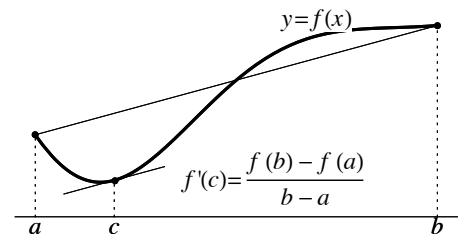
[定理4] (平均値定理) $f(x)$ が2条件

- ① 区間 $[a, b]$ で連続,
- ② (a, b) で微分可能

をみたせば, $a < c < b$ なる c が存在して,

$$f'(c) = \frac{f(b) - f(a)}{b - a}$$

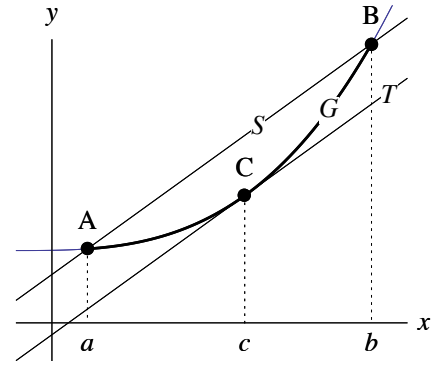
となる. //



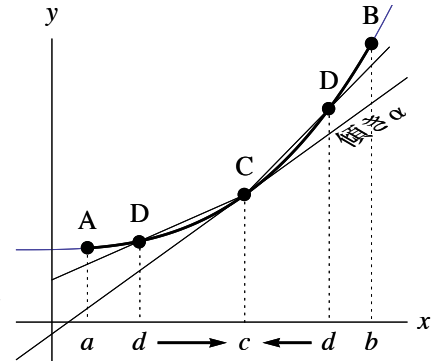
< 点 $(c, f(c))$ における接線は, 点 $(a, f(a)), (b, f(b))$ を結ぶ割線と傾きが等しい. >

(証明概略) 右図のように、曲線 $y=f(x)$ 上の2点 $A(a, f(a))$ と $B(b, f(b))$ を結ぶ曲線の弧を G 、この2点を通る割線を S とする。 G 上の点で S との距離が最大の点を $C(c, f(c))$ とする。 C を通り S と平行な直線を T とする。 S と T の傾きは、共に $\frac{f(b)-f(a)}{b-a}$ である。 T は C における曲線の接線であるから、傾きは $f'(c)$ でもある。 ゆえに、

$$\frac{f(b)-f(a)}{b-a} = T \text{の傾き} = f'(c). //$$



(下線部補足) T は、傾き $\alpha = \frac{f(b)-f(a)}{b-a}$ が $f'(c)$ と等しく、 G の接線となることを示す。 C は S より下にあるとする。 上にある場合も同様に証明できる。 挟み打ちで $\alpha \leq f'(c) \leq \alpha$ を示せば十分である。



① $f'(c) \leq \alpha$ を示す。 G の部分弧 \widehat{CB} 上に点 $D(d, f(d))$ をとる。 D は T 上か、それより上方にあるので、割線 CD の傾き $\frac{f(d)-f(c)}{d-c} \geq \alpha$ 。 ゆえに、

$$f'(c) = \lim_{d \rightarrow c+0} \frac{f(d)-f(c)}{d-c} \geq \alpha.$$

② $f'(c) \geq \alpha$ を示す。 G の部分弧 \widehat{AC} 上に点 $D(d, f(d))$ をとる。 D は T 上か、それより上方にあるので、割線 CD の傾き $\frac{f(c)-f(d)}{c-d} \leq \alpha$ 。 ゆえに、

$$f'(c) = \lim_{d \rightarrow c-0} \frac{f(d)-f(c)}{d-c} \leq \alpha. //$$

[例1] $f(x) = \sqrt{1-x^2}$, $a=0, b=1$ について、定理2の c を求めよ。

$f'(x) = \frac{-x}{\sqrt{1-x^2}}$ である。 方程式 $f'(c) = \frac{-c}{\sqrt{1-c^2}} = \frac{f(b)-f(a)}{b-a} = \frac{f(1)-f(0)}{1} = 0-1 = -1$ を解けばよい。

$$\sqrt{1-c^2} = c \Rightarrow 1-c^2 = c^2 \Rightarrow c^2 = \frac{1}{2} \Rightarrow c = \pm \frac{\sqrt{2}}{2} \quad (0 < c < 1) \Rightarrow c = \frac{\sqrt{2}}{2}.$$

[例2] (平均値の定理の応用) $a > b > 0$ のとき、 $\frac{1}{a} < \frac{\log a - \log b}{a-b} < \frac{1}{b}$ を示す。

$f(x) = \log x$ と置くと、 $f'(x) = \frac{1}{x}$ 。 平均値の定理より、 $b < c < a$ が存在して、 $\frac{\log a - \log b}{a-b} = \frac{1}{c}$ 。 これと

$\frac{1}{a} < \frac{1}{c} < \frac{1}{b}$ より、求める不等式を得る。 //

第6回練習問題

(1) $a > 0$ のとき、不等式 $1 < \frac{e^a - 1}{a} < e^a$ を証明せよ。

(2) $a \neq b$ のとき、不等式 $|\sin a - \sin b| \leq |a - b|$ を証明せよ。

第6回練習問題

(1) $a > 0$ のとき, 不等式 $1 < \frac{e^a - 1}{a} < e^a$ を証明せよ. (5点)

(2) $a \neq b$ のとき, 不等式 $|\sin a - \sin b| \leq |a - b|$ を証明せよ. (5点)

解答

(1)

① 区間 $[0, a]$ で関数 $f(x) = e^x$ を考える. (1点)

② 平均値の定理より, $0 < c < a$ が存在して, $\frac{e^a - 1}{a} = \frac{f(a) - f(0)}{a - 0} = f'(c) = e^c$. (2点)

③ これと, $1 = e^0 < e^c < e^a$ より, 求める不等式を得る. // (2点)

(2)

① 区間 $[a, b]$ で関数 $f(x) = \sin x$ を考える. (1点)

② 平均値の定理より, $a < c < b$ が存在して,

$$\frac{\sin a - \sin b}{a - b} = \frac{\sin b - \sin a}{b - a} = \frac{f(b) - f(a)}{b - a} = f'(c) = \cos c. \quad (2点)$$

③ これと, $|\cos c| \leq 1$ より, $\left| \frac{\sin a - \sin b}{a - b} \right| \leq 1$. ゆえに, $|\sin a - \sin b| \leq |a - b|$. // (2点)

次の3要素が必要.

①で関数と区間を設定.

②で平均値の定理を使う.

③で不等式を示す.

これに相当する表現があればよい.

(2) 実は, $a \neq b$ なら $|\sin a - \sin b| < |a - b|$ である(等号は要らない).

まず, $\left| \frac{\sin x}{x} \right| < 1$ ($x \neq 0$) …① を示す.

$0 < |x| < \pi$ のとき, 平均値の定理より,

$$\frac{\sin x}{x} = \frac{\sin x - \sin 0}{x - 0} = f'(c) = \cos c \quad (0 < |c| < |x| < \pi).$$

$0 < |c| < |x| < \pi$ だから, $|\cos c| < 1$ ゆえ, 求める不等式が成り立つ.

つぎに, $|x| \geq \pi$ のとき,

$$\left| \frac{\sin x}{x} \right| \leq \frac{1}{\pi} < 1$$

で成立.

さて, $\left| \cos \frac{a+b}{2} \right| \leq 1$ …② だから, $d = \frac{a-b}{2}$ と置くと,

$$\left| \frac{\sin a - \sin b}{a - b} \right| \leq \left| \frac{2 \sin \frac{a-b}{2} \cos \frac{a+b}{2}}{a-b} \right| \stackrel{\textcircled{2}}{\leq} \left| \frac{2 \sin \frac{a-b}{2}}{a-b} \right| = \left| \frac{\sin d}{d} \right| \stackrel{\textcircled{1}}{<} 1. //$$